

社会学研究科

研究指導概要

博士前期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・指導教授の決定・「学位論文題目届」を提出する。(4月)
- ・指導教員と修士論文のテーマ・方法などについて相談する。
- ・博士前期課程における研究計画を検討し、先行研究の検討に着手する。
- ・研究テーマに合わせ、科目履修を進め、調査・実験等の方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・具体的な研究テーマに関して資料収集等を進め、当該分野の先行研究の検討を深め、学会での発表や論文投稿を目指し研究を具体化する。
- ・研究課題の意義・手法・先行研究などについて報告・討論し、研究者としてのプレゼンテーション力を養う。
- ・修士論文の方向性について指導教員と相談する(「研究指導」等)

3 セメスタ

- ・「学位論文題目届」を提出する。(4月)
- ・指導教員と修士論文のテーマおよび内容などについて相談・確認する。
- ・資料収集・先行研究等の検討を続け、研究の視座・論理・手法の妥当性を検証し、必要に応じ実証的な知見を得たうえで、研究成果を取りまとめる。

4 セメスタ

- ・研究の精度を高め、修士学位論文にまとめる。
- ・修士論文「審査願」に指導教授の署名・捺印を受け(修士論文提出時に必要・おおむね12月下旬～1月はじめ)、修士論文を「論文要旨」等とともに提出する。(1月上旬)
- ・口頭試験を受ける。(1月下旬～2月上旬)

2. 論文報告会(論文発表会)等の概要と発表の要件等

<社会学専攻>

- ・「研究指導」等の場で年1-2回程度、中間報告を行う。

<社会心理学専攻>

- ・各学年において、年1-2回の中間報告会で進捗状況の報告を義務づける。また修士論文の提出後には、最終報告会で論文内容について報告することを義務づける。

<福祉社会システム専攻>

- ・2年次7月に専攻全体の修士論文中間報告会を開催し、指導教授以外からも指導を受ける機会を設ける。理論と実践の融合を具体的な研究テーマに纏め上げた成果を修士論文中間報告会で発表する。
- ・修士論文に代えて特定課題研究論文を提出する場合、中間報告会での報告は、1本目あるいは2本目の完成時期を目標とする。

3. 特定課題研究論文

社会学専攻、福祉社会システム専攻では、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めている。

『特定課題研究論文』とは、「特定の課題について、実践的に調査・研究した論文」をいう。

- (1) 特定課題研究論文は、12,000字以上のものを3本提出する。
- (2) 修士学位論文または特定課題研究論文については、原則として入学時に選択する(2年次の7月末まで変更を認める)。
- (3) 修了単位として、社会学専攻は30単位以上、福祉社会システム専攻は36単位以上修得(見込)していること。

<社会学専攻>

- ①博士後期課程進学希望者は、修士学位論文を選択すること。
- ②特定課題研究論文の1・2・3本目については、主指導教授の指示を受け、適切な時期に、主・副指導教授に直接提出すること。また、3本まとめたものを、下記の通り、修士学位論文に準じた時期に、大学院教務

課に提出する必要がある。3本まとめたものの提出にあたっては、提出時期・様式とも修士学位論文に準ずる。

題目届提出締切	論文提出時期（3本まとめたもの）	提出先
4月	修士学位論文提出時期に同じ	大学院教務課

③特定課題研究論文を選択した場合の研究指導スケジュールは、修士学位論文を選択した場合に準ずる。

<福祉社会システム専攻>

- ①特定課題研究論文の1・2本目の提出時期については、主指導教授の指示に従い、主・副指導教授に提出すること。
- ②中間報告会での報告は、1本目あるいは2本目の完成時期を目標とする。
- ③3本まとめたものの提出は修士学位論文提出の時期・様式と同じとする。
- ④3本の研究課題は相互に関連するものでも、別個のテーマを扱うものでもよい。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容（モデルケース）

1 セメスタ

- ・博士後期課程における研究テーマの意義と展開を検討する。
- ・博士後期課程における研究計画を立案する。

2 セメスタ

- ・研究テーマに即して資料収集等を進めるとともに、当該分野の先行研究の検討を深める。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。

3 セメスタ

- ・資料収集等を進め、かつ知見を深め広げるための先行研究等の検討を続ける。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。

4 セメスタ

- ・資料収集等を進め、かつ知見を深め広げるための先行研究等の検討をまとめる。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。
- ・この時期までに査読付き雑誌に最低1本の論文を投稿・掲載されるよう努力する

5 セメスタ

- ・主指導教授が、研究科委員会の承認のもとに、2名以上の本学教員（原則として所属する専攻の博士後期課程研究指導担当教員）とともに課程博士論文提出指導小委員会を構成し、論文が本審査を受けるに値するかどうかの審査が行われる。
- ・指導教授と相談の上、6月末ごろまでに博士論文の下書きを完成させる。

6 セメスタ

- ・課程博士論文提出指導小委員会からの、本審査を受けるに値すると判断した旨の通知を受け、博士論文の本審査にむけて、論文内容を修正し、学位論文を提出し（11月上旬）、審査を受ける。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

- ・毎年1～2回の中間報告を義務づける。
- ・論文提出後に開催される公聴会に参加し、発表する。

社会学研究科 社会学専攻・社会心理学専攻

専門社会調査士資格の取得について

専門社会調査士とは、下記の要件を満たした者について、一般社団法人 社会調査協会（以下、社会調査協会と呼称）に申請し、社会調査協会が認定する資格である。

■資格申請のための要件

(1) 社会調査士資格を有すること。

〔2016年度以前入学生〕

社会調査士資格を有していない場合であっても、社会調査士資格の標準カリキュラムに対応する科目の単位を取得していれば、専門社会調査士資格を取得する際、同時に申請することができる（この場合、以下「E」・「F」科目は選択制、「G」科目は不要）。

また、所定の手続（「許可願」を提出）を行うことによって、本学社会学部で開講する社会調査士資格の下記科目を履修することができる。詳細は掲示で確認すること。

社会調査士資格の標準カリキュラム（社会学部開講科目）

区分	本学社会学部開講科目名	備考
A	社会調査入門 A / 社会調査入門 I	社会調査入門 I・II はセット履修
B	社会調査入門 B / 社会調査入門 II	
C	統計情報処理および実習 I（第1部） 統計情報処理および実習（第2部）	いずれか1科目で可
D	社会統計学	いずれか1科目で可
E	社会統計解析法	
F	質的調査法	
G	社会調査および実習 A・B / 社会調査および実習	専門社会調査士資格を同時申請する場合は不要。 社会調査および実習 A・B は通年で履修すること。

※ 特記がない限り、第1部・第2部双方で開講

※ 希望する曜時限の科目が学部生で定員を超える場合等は、履修不可あるいは別の曜時限の同一科目に変更となることがある。

※ 年度により科目名称が変更となることがあるので、社会学部教務課に確認すること。

〔2017年度以降入学生〕

上記学部開講科目の履修を希望する場合は、所定の選考を経た上で、学部科目等履修生（科目履修生／諸資格履修生）として履修が認められる。※原則として実習科目は履修できない。

詳しくは p.69 「21. 大学院生の学部開講科目の履修について」を参照すること。

(2) 以下の専門社会調査士科目「6科目」（12単位）を履修し、かつ単位を取得すること。

（2014年度以前入学生は、入学年度の履修要覧を参考にすること）

①社会学専攻の場合

区分	社会学専攻開講科目名	単位数
H	社会学特論Ⅲ A	2 単位
	社会学特論Ⅲ B	2 単位
I	社会学特論Ⅳ A	2 単位
	社会学特論Ⅳ B	2 単位
J	社会学特論Ⅴ A	2 単位
	社会学特論Ⅴ B	2 単位

②社会心理学専攻の場合

区分	社会学専攻開講科目名	単位数
H	社会心理学研究法ⅡA	2単位
	社会心理学研究法ⅡB	2単位
I	社会心理学研究法ⅢA	2単位
	社会心理学研究法ⅢB	2単位
J	社会心理学研究法Ⅳ	2単位
	社会心理学研究法Ⅴ	2単位

(3) 社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること。

- ・ここで言う社会調査とは、定量調査あるいは定性調査を指し、他者の調査したデータの二次的利用は含まない。
- ・定性調査には、内容分析、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフストーリー分析、会話分析などを含む。
- ・修士論文以外の研究論文とは、原則として学術団体の学会誌に、査読を経て掲載された研究論文を指す。
- ・申請時には、研究論文（修士論文を含む）2部（同じものを2部）の提出が必要である。

■申請手続

大学院教務課を通じて社会調査協会に申請する。

「申請書類・提出方法・提出期間」の詳細は、2022年1月頃大学院教務課の掲示およびToyoNet-Gの学生へのお知らせで確認すること。

申請に必要な書類

- | | |
|----------------------------|------|
| ① 専門社会調査士認定申請書 | ★ |
| ② 履歴書 | ★ |
| ③ 研究論文概要説明書（修士論文を含む） | ★ |
| ④ 研究論文（修士論文を含む）同じものを2部 | |
| ⑤ 単位取得・修士修了を証明する書類 | ☆ |
| ⑥ 手数料振り込み後の振替払込請求書兼受領証のコピー | ☆（注） |

【以下、社会調査士資格を同時に申請する場合のみ】

- | | |
|----------------------|---|
| ⑦ 社会調査士認定申請書 | ★ |
| ⑧ 大学での単位取得・卒業を証明する書類 | ☆ |

★：社会調査協会のホームページ（<http://jasr.or.jp/>）よりフォームをダウンロード、記入

☆：大学院教務課で入手

（注） 大学院教務課で配付する振込用紙で、手数料を振り込み、振替払込請求書兼受領証のコピーを①に貼り付けること。

※ 手数料は、以下のとおり。

- ・ 社会調査士資格を取得している学生 : 33,000円
- ・ 社会調査士資格を取得していない学生 : 44,000円

（いずれも2020年度参考）

東洋大学大学院社会学研究科規程

平成29年規程第28号

平成29年4月1日

施行

改正 平成30年4月1日 平成31年4月1日

令和3年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。）第4条第5項に基づき、東洋大学大学院社会学研究科（以下「社会学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 社会学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 社会学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 社会学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法等を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 社会学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、社会学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

専攻	免許状の種類及び教科	
	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状
社会学	公民	社会
社会心理学	公民	-

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、社会学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目の単位を修得し、東洋大学大学院（以下「本大学院」という。）の課程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。

(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が社会学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

- この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、改正後の第3条及び第3条別表第2並びに第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、2021年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、社会学研究科福祉社会システム専攻に在籍する者については、改正した別表第1から別表第4までの規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第2条関係）

社会学研究科

<p>人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 現代社会の諸問題を解決するために幅広く社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学の成果を活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学およびその関連する分野に関する高度な専門知識を基盤に現代社会における諸問題を解明し、実証的研究を行う能力、研究倫理への理解、研究成果を発信する能力を習得させることを教育研究上の目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 現代社会の諸問題を解決するために幅広く社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学・社会福祉学の成果を高度に活用できる研究者・教育者等の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学およびその関連する分野に関する高度な専門知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、実証的研究を行い、研究倫理への理解を持ち、研究成果を発信できる、研究者・教育者として卓越した能力を習得させることを教育研究上の目的とする。</p>

社会学研究科社会学専攻

<p>人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 高度な専門知識・能力を基盤に、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求する優れた職業人、研究者、教育者の養成を目指す。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代社会の多様な問題の解明に係る4つのコース、現代社会学コース、社会文化共生学コース、メディアコミュニケーション学コース、社会実践学コースを設け、高度な専門知識・能力を身につけた研究者、及び高度な能力を身に付けた専門職業人の養成することを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 高度な専門知識・能力を基盤に、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求し、国際社会でリーダーシップをとって活躍できる優れた職業人、研究者、教育者の養成を目指す。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代社会の多様な問題について、倫理性を重視しつつ、理論、実証、応用にわたって、高度な専門的知識・能力により、国際的な視野をもって独創的な研究を行う研究者及び大学教員の養成を目的とする。</p>
--

社会学研究科社会心理学専攻

<p>人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 社会心理学の多様な知見に基づいて、さまざまな社会状況における人間の認知や行動の特性を深く理解し、よりよい人間社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会心理学の実証的研究方法を実践的に学び、高い倫理観のもとに人間社会の諸問題を客観的に探究し、研究成果を公表できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 社会心理学の高度な専門的知識と研究実践力をもとに、国際社会に目を向けたリーダーシップを備え、研究や教育の場で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代の人間社会で生じるさまざまな問題に関心を向け、その理解と解決のために社会心理学の成果を活用し、かつ高い倫理観と国際的な視野のもとに独自の研究を遂行できる能力を習得させることを目的とする。</p>

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第3条関係）

社会学研究科社会学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p>
<p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連する分野に関する高度な専門的知識を身につけている。 (2) 関連領域の専門的知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、その解決を探索するための実証的研究を行う能力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を理解し、研究成果を発信する能力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連する分野に関する高度な専門的知識を身につけ、国内外の研究者と議論できる能力を身につけている。 (2) 関連領域の専門的知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、その解決を探索するために、国際的な視点をもって独創的研究を遂行する能力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を理解し、国内だけではなく海外で研究成果を発信する能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p>
<p>【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成している。授業科目としては「基礎科目」「現代社会学コース科目」「社会文化共生学コース科目」「メディアコミュニケーション学コース科目」「社会実践学コース科目」を設け、少人数制のきめ細かい体系的指導を通して、社会学・文化人類学・社会情報学および関連する分野の専門的知識と実証的研究方法を教授する。研究指導は、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階から個別に指導にあたり、調査研究の実施、学会等での発表、修士論文も含めた論文の執筆を指導する。さらに、社会人学生が夜間履修で修了できるよう、多様な学びを支援する。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は「社会学特殊研究」「文化人類学特殊研究」「社会情報学特殊研究」を設け、少人数制のきめ細かい体系的指導を通して、社会学・文化人類学・社会情報学および関連する分野の高度な専門的知識と実証的研究方法を教授する。研究指導は、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階から個別に指導にあたり、調査研究の実施、学会等での発表、博士論文も含めた論文の執筆を指導する。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p>
<p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 現代社会が直面している諸問題に関する知識のある者。 (2) 客観的かつ論理的にものごとを考え、自ら研究テーマを設定し研究を遂行していく能力のある者。 (3) 関連分野における専門的知識を身につけ、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探索しようとする意欲のある者。</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連分野における研究成果と実証的研究方法についての知識のある者。 (2) 国際的な視点に立って独創的な研究を遂行する能力のある者。 (3) 関連分野における高度な専門的知識と研究遂行能力を身につけ、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探索し、社会に貢献しようとする意欲のある者。</p>

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国内・海外を問わず公表された、多様な社会心理学の研究成果を理解し応用できるための基本的な知識を身につけている。 (2) 社会心理学のさまざまな実証的研究方法を理解し、問題に応じた研究方法を立案・計画して実践する能力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を深く理解し、高い倫理観のもとに人間社会を対象とした実証研究を行うことのできる技能を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国内・海外を問わず公表された、社会心理学の研究成果とその社会的意義について批判的に考察し、さまざまな視点から議論することのできる能力を身につけている。 (2) 現代の人間社会における諸問題について、社会心理学的観点から考察し、実証的研究へと展開することのできる洞察力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を深く理解し、自ら高い倫理観をもって社会心理学の実証研究を行えるとともに、指導的立場から他者に伝えることのできる能力を身につけている。
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成／教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成している。授業科目では、社会心理学研究の前提となる基礎知識を学ぶ「基礎社会心理学」を1年次の春学期に開講する。また、社会心理学のさまざまな実証的研究方法を学ぶための「社会心理学研究法」を複数開講し、そのいくつかは「専門社会調査士」の資格認定科目に位置づける。社会心理学の研究成果を幅広く学べるように、さまざまな領域を対象とする「社会心理学特論」と「社会心理学演習」を開講し、選択的に学べるようにする。教員と学生の全員参加により総合的視点から研究内容を検討する「社会心理学総合研究」や、国際化対応のための「外国語表現法」も設置する。研究指導では、さまざまな領域を専門とする教員が、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階からきめ細かく指導にあたり、研究の実施、学会等での発表、修士論文も含めた論文の執筆を指導する。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成／教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目では、さまざまな研究領域を対象とする「社会心理学特殊研究」で、専門分野を深く学べるようにする。教員と学生の全員参加により総合的視点から研究内容を検討する「社会心理学総合研究」も開講する。研究指導では、さまざまな領域を専門とする教員が、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階からきめ細かく指導にあたり、研究の実施、学会等での発表、博士論文も含めた論文の執筆を指導する。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会心理学が、個人と社会に関するどのような現象を研究対象としているのかについての知識のある者。 (2) 直観や常識だけに頼らずに、客観的かつ論理的にものごとを考慮することのできる能力のある者。 (3) 社会心理学のさまざまな研究成果を学び、それに基づいて自らの研究テーマを深く探究しようとする意欲のある者。 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会心理学のさまざまな研究成果や、さまざまな実証的研究方法についての知識のある者。 (2) 国際的な視野に立って、自らの研究テーマを設定し、実証的研究を進め、成果を公表できる能力のある者。 (3) 社会心理学に関する高度な専門知識と研究遂行力を身につけ、研究や教育を通して社会に貢献しようとする意欲のある者。

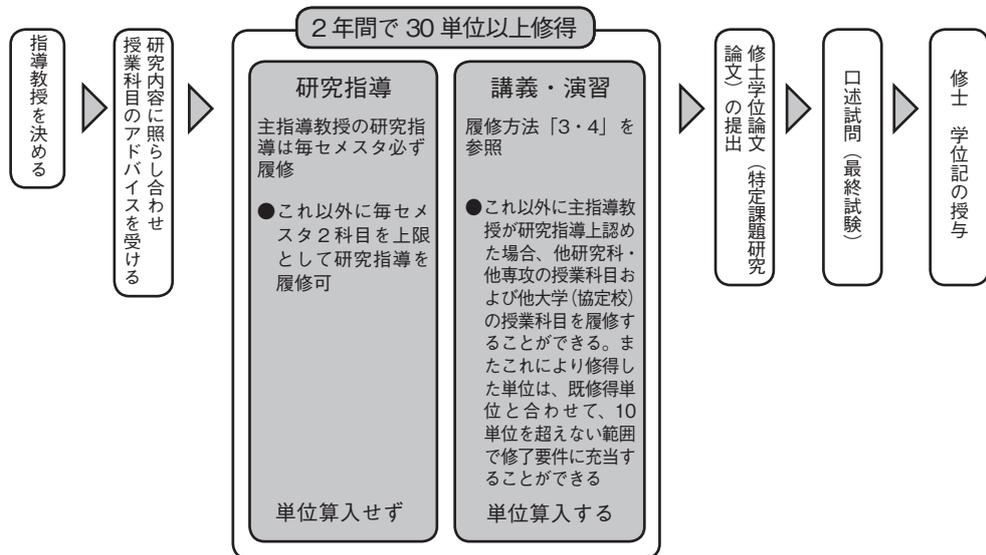
別表第3 教育課程（第4条関係）
省略する。

別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）
省略する。

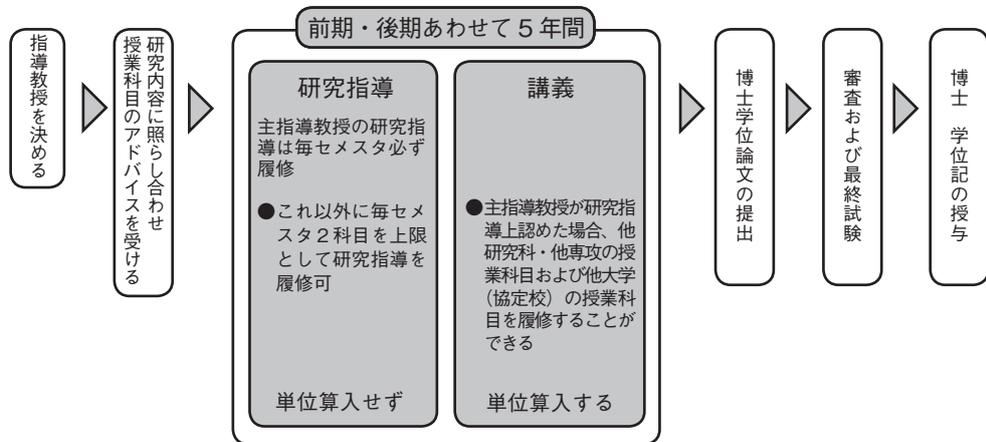
別表第5 教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数（第7条関係）
省略する。

社会学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

社会学専攻

博士前期課程

	授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	相 関 ナンバリング	学 期	講義・演習の別	担 当 教 員	備 考
基礎科目	原書講読 I A	現代社会学分野	2	SOC601	春秋	講義	中山伸樹	本年度休講
	原書講読 I B		2	SOC602				
	原書講読 II A	社会文化共生学分野	2	SOC603		講義		
	原書講読 II B		2	SOC604				
	原書講読 III A	社会情報学分野	2	SOC605	春秋	講義	海野敏功	
	原書講読 III B		2	SOC606			中村敏彦	
	社会学特論 I A	社会科学方法論	2	SOC607	春秋	講義	荒川敏彦	
	社会学特論 II A	情報検索・データベース論	2	SOC608	春秋	講義	栗山和子	
	社会学特論 II B		2	SOC609				
	社会学特論 III A	社会調査法	2	SOC610	春秋	講義	大谷奈緒子	
	社会学特論 III B		2	SOC611		講義	大竹延幸	
	社会学特論 IV A	統計解析および多変量解析	2	SOC612	春秋	講義	尾崎幸謙	
	社会学特論 IV B		2	SOC613				
	社会学特論 V A	質的調査法1	2	SOC614	春秋	講義	長津一史	※
	社会学特論 V B	質的調査法2	2	SOC615	春秋	講義	水野剛也	
	社会学特論 V C	質的調査法3	2	SOC654	春秋	講義	文貞實	※
	社会学特論 VI A	SPSSによる基礎的データ解析法	2	SOC655	春秋	講義	酒井計史	※
	社会学特論 VI B	留学生のためのアカデミックライティング	2	SOC656	春秋	講義	アルタンボリグ	
	外国語表現法 A	英語ライティング	2	FLE601	春秋	講義	グラフ デイヴィッド	
	外国語表現法 B	英語プレゼンテーション	2	FLE602	春	講義		
現代社会学コース科目	社会学特論 VII A	現代社会思想論	2	SOC616		講義		本年度休講
	社会学特論 VII B		2	SOC617				隔年開講
	社会学特論 VIII A	現代家族社会学	2	SOC618	春秋	講義	西野理子	社会学研究指導 I A/B と共通
	社会学特論 VIII B		2	SOC619				
	社会学特論 IX A	現代文化社会学	2	SOC620	春秋	講義	平島みさ	社会学研究指導 II A/B と共通
	社会学特論 IX B		2	SOC621				
	社会学特論 X A	現代地域社会学	2	SOC622	春秋	講義	西野淑美	社会学研究指導 III A/B と共通
	社会学特論 X B		2	SOC623				
	社会学特別講義 X I	特別講義	2	SOC624	春秋	講義	品田知美	集中講義
	社会学演習 I A	現代社会学理論	2	SOC625	春秋	演習	木村正人	社会学研究指導 IV A/B と共通
	社会学演習 I B		2	SOC626				
	社会学演習 II A	現代組織社会学	2	SOC627	春秋	演習	小山裕	社会学研究指導 V A/B と共通
	社会学演習 II B		2	SOC628				
	社会学演習 III A	現代犯罪社会学	2	SOC629	春	演習	本田宏治	社会学研究指導 VI A と共通
	社会学演習 III B		2	SOC630				本年度休講
	社会学演習 IV A	現代宗教社会学	2	SOC631	春秋	演習	高橋典史	社会学研究指導 VII A/B と共通
	社会学演習 IV B		2	SOC632				
	社会学演習 V A	現代国際社会学	2	SOC633		演習		本年度休講
社会学演習 V B		2	SOC634					
社会文化共生学コース科目	文化人類学特論 I A	社会文化共生論	2	CUA601	春秋	講義	井沢泰樹	文化人類学研究指導 IV A/B と共通
	文化人類学特論 I B		2	CUA602				
	文化人類学特論 II A	文化共生史	2	CUA603	春秋	講義	三沢伸生	
	文化人類学特論 II B		2	CUA604				
	文化人類学特論 III A	環境共生論	2	CUA605		講義		本年度休講
	文化人類学特論 III B		2	CUA606				
	文化人類学特論 IV A	地域共生論	2	CUA607	春秋	講義	小林正夫	文化人類学研究指導 V A/B と共通
	文化人類学特論 IV B		2	CUA608				
	文化人類学特論 V A	社会貢献概論	2	CUA609	春秋	講義	中澤高師	文化人類学研究指導 I A/B と共通
	文化人類学特論 V B		2	CUA610				
	文化人類学特論 VI A	多文化共生論	2	CUA611	春秋	講義	長津一史	文化人類学研究指導 VI A/B と共通
	文化人類学特論 VI B		2	CUA612				
	文化人類学特論 VII A	文化人類学	2	CUA613		講義		本年度休講
	文化人類学特論 VII B		2	CUA614				本年度休講
	文化人類学特論 VIII	特別講義	2	CUA615		講義		本年度休講
	文化人類学特論 IX A	社会貢献組織論	2	CUA616	春秋	講義	桔川純子	
	文化人類学特論 IX B		2	CUA617				
	文化人類学演習 I A	社会人類学	2	CUA618	春秋	演習	田所聖志	文化人類学研究指導 II A/B と共通
	文化人類学演習 I B		2	CUA619				
	文化人類学演習 II A	生態人類学	2	CUA620	春秋	演習	波佐間逸博	文化人類学研究指導 III A/B と共通
	文化人類学演習 II B		2	CUA621				

	授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	相 番 ナンバリング	学 期	講 義 ・ 演 習 の 別	担 当 教 員	備 考
メディアコミュニケーション学 コース科目	社会情報学特論ⅠA	マス・コミュニケーション論	2	SOC635	春	講義	長 広 美	社会情報学研究指導ⅤA/Bと共通
	社会情報学特論ⅠB		2	SOC636	秋	講義		
	社会情報学特論ⅡA	広 告 論	2	SOC637	春	講義	藺 部 靖 史	社会情報学研究指導ⅥA/Bと共通
	社会情報学特論ⅡB		2	SOC638	秋	講義		
	社会情報学特論ⅢA	社会情報学	2	SOC639	春	講義	中 村 功	社会情報学研究指導ⅢA②/B② と共通
	社会情報学特論ⅢB		2	SOC640	秋	講義		
	社会情報学特論ⅣA	情 報 学	2	SOC641		講義		本年度休講
	社会情報学特論ⅣB		2	SOC642		講義		
	社会情報学特論Ⅴ	特 別 講 義	2	SOC643	秋	講義	石 山 玲 子	集中講義
	社会情報学演習ⅠA	マス・コミュニケーション論	2	SOC644		演習		本年度休講
	社会情報学演習ⅠB		2	SOC645		演習		
	社会情報学演習ⅡA	ジャーナリズム論	2	SOC646		演習		本年度休講
	社会情報学演習ⅡB		2	SOC647		演習		
	社会情報学演習ⅢA	社会情報学	2	SOC648	春	演習	小笠原 盛 浩	社会情報学研究指導ⅢA①/B① と共通
	社会情報学演習ⅢB		2	SOC649	秋	演習		
	社会情報学演習ⅣA	情 報 学	2	SOC650	春	演習	海 野 敏	社会情報学研究指導ⅣA/Bと共通
	社会情報学演習ⅣB		2	SOC651	秋	演習		
	社会実践学 コース科目	社会実践学特論Ⅰ	研究基礎論	2	SOC657	春	講義	須 田 木綿子 小 澤 浩 明 文 貞 實 榊 原 圭 子 村 尾 祐美子
社会実践学特論Ⅱ		社会実践計画論	2	SOC658	春	講義	小 山 弘 美	※
社会実践学特論Ⅲ		ダイバシティ論	2	SOC659	春	講義	神 谷 悠 一	
社会実践学特論ⅣA		社会的課題と向き合う: 非営利組織の可能性	2	SOC660	秋	講義	須 田 木綿子 文 貞 實	オムニバス方式
社会実践学特論ⅣB		インクルーシブな社会をつ くる:企業による取り組み	2	SOC661	秋	講義	榊 原 圭 子 村 尾 祐美子	オムニバス方式
社会実践学演習ⅠA		貧困・格差と社会	2	SOC662	春	演習	文 貞 實	社会実践学研究指導ⅠA/Bと共通
社会実践学演習ⅠB			2	SOC663	秋	演習		
社会実践学演習ⅡA		教育システムと社会	2	SOC664	春	演習	小 澤 浩 明	社会実践学研究指導ⅡA/Bと共通
社会実践学演習ⅡB			2	SOC665	秋	演習		
社会実践学演習ⅢA		雇用・労働・ジェンダーと社会	2	SOC666	春	演習	村 尾 祐美子	社会実践学研究指導ⅢA/Bと共通
社会実践学演習ⅢB			2	SOC667	秋	演習		
社会実践学演習ⅣA		マルチキャリアと社会	2	SOC668	春	演習	榊 原 圭 子	社会実践学研究指導ⅣA/Bと共通
社会実践学演習ⅣB			2	SOC669	秋	演習		
社会実践学演習ⅤA		ヒューマン・サービスと社会	2	SOC670	春	演習	須 田 木綿子	社会実践学研究指導ⅤA/Bと共通
社会実践学演習ⅤB		2	SOC671	秋	演習			
現代社会学 コース研究指導	社会学研究指導ⅠA	現代家族社会学		REG601	春		西 野 理 子	
	社会学研究指導ⅠB			REG602	秋			
	社会学研究指導ⅡA	現代文化社会学		REG603	春		平 島 み さ	
	社会学研究指導ⅡB			REG604	秋			
	社会学研究指導ⅢA	現代地域社会学		REG605	春		西 野 淑 美	
	社会学研究指導ⅢB			REG606	秋			
	社会学研究指導ⅣA	現代社会学理論		REG607	春		木 村 正 人	
	社会学研究指導ⅣB			REG608	秋			
	社会学研究指導ⅤA	現代組織社会学		REG609	春		小 山 裕	
	社会学研究指導ⅤB			REG610	秋			

	授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	相 関 ナンバリング	学 期	講義・演習の別	担 当 教 員	備 考
現代社会学コース研究指導	社会学研究指導ⅥA	現代犯罪社会学	REG611		春		本 田 宏 治	本年度休講
	社会学研究指導ⅥB		REG612					
	社会学研究指導ⅦA	現代宗教社会学	REG613		春		高 橋 典 史	
	社会学研究指導ⅦB		REG614		秋			
	社会学研究指導ⅧA	現代国際社会学	REG615					本年度休講
	社会学研究指導ⅧB		REG616					
社会文化共生学コース研究指導	文化人類学研究指導ⅠA	社会貢献概論	REG617		春		中 澤 高 師	
	文化人類学研究指導ⅠB		REG618		秋			
	文化人類学研究指導ⅡA	社会人類学	REG619		春		田 所 聖 志	
	文化人類学研究指導ⅡB		REG620		秋			
	文化人類学研究指導ⅢA	生態人類学	REG621		春		波佐間 逸 博	
	文化人類学研究指導ⅢB		REG622		秋			
	文化人類学研究指導ⅣA	社会文化共生論	REG623		春		井 沢 泰 樹	
	文化人類学研究指導ⅣB		REG624		秋			
	文化人類学研究指導ⅤA	地域共生論	REG625		春		小 林 正 夫	
	文化人類学研究指導ⅤB		REG626		秋			
	文化人類学研究指導ⅥA	多文化共生論	REG627		春		長 津 一 史	
	文化人類学研究指導ⅥB		REG628		秋			
メディアコミュニケーション学コース研究指導	社会情報学研究指導ⅠA	マス・コミュニケーション論	REG629		春		大 谷 奈 緒 子	
	社会情報学研究指導ⅠB		REG630		秋			
	社会情報学研究指導ⅡA	ジャーナリズム論	REG631					本年度休講
	社会情報学研究指導ⅡB		REG632					
	社会情報学研究指導ⅢA①	社会情報学	REG633		春		小笠原 盛 浩	
	社会情報学研究指導ⅢB①		REG634		秋			
	社会情報学研究指導ⅢA②	社会情報学	REG635		春		中 村 功	
	社会情報学研究指導ⅢB②		REG636		秋			
	社会情報学研究指導ⅣA	情 報 学	REG637		春		海 野 敏	
	社会情報学研究指導ⅣB		REG638		秋			
	社会情報学研究指導ⅤA	マス・コミュニケーション論	REG639		春		長 広 美	
	社会情報学研究指導ⅤB		REG640		秋			
社会情報学研究指導ⅥA	広 告 論	REG641		春		藺 部 靖 史		
社会情報学研究指導ⅥB		REG642		秋				
社会実践学コース研究指導	社会実践学研究指導ⅠA	貧困・格差と社会	REG643		春		文 貞 實	本コースの担当教員を主指導教授とする場合「修了に必要な単位等」に定めるものに加え、pp.164-165備考欄に「※」がある科目をすべて修得しなければならない。
	社会実践学研究指導ⅠB		REG644		秋			
	社会実践学研究指導ⅡA	教育システムと社会	REG645		春		小 澤 浩 明	
	社会実践学研究指導ⅡB		REG646		秋			
	社会実践学研究指導ⅢA	雇用・労働・ジェンダーと社会	REG647		春		村 尾 祐 美 子	
	社会実践学研究指導ⅢB		REG648		秋			
	社会実践学研究指導ⅣA	マルチキャリアと社会	REG649		春		榊 原 圭 子	
	社会実践学研究指導ⅣB		REG650		秋			
社会実践学研究指導ⅤA	ヒューマン・サービスと社会	REG651		春		須 田 木 綿 子		
社会実践学研究指導ⅤB		REG652		秋				

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。

3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中各2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
 4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
 5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
- 専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.154～155を参照のうえ、不明な点があれば、2021年度本学連絡責任者（長津一史教授）または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

社会学専攻 博士前期課程 授業科目読替表

履修登録や修了単位の算出にあたっては、以下の授業科目読替表の対応科目を「同一名称の科目」として読み替える。

2021年度以降		2020年度以前
社会学特論Ⅴ A	⇔	社会学特論Ⅴ
社会学特論Ⅴ B	⇔	社会学特論Ⅵ

博士後期課程

		授業科目・研究指導				講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング	学期			
社会学特殊研究Ⅰ	4	社会学特殊研究ⅠA	2	SOC701	春秋	講義	高橋典史	本年度休講
		社会学特殊研究ⅠB	2	SOC702				
社会学特殊研究Ⅱ	4	社会学特殊研究ⅡA	2	SOC703	春秋	講義	高橋典史	社会学研究指導ⅣA/Bと共通
		社会学特殊研究ⅡB	2	SOC704				
社会学特殊研究Ⅲ	4	社会学特殊研究ⅢA	2	SOC705	春秋	講義		本年度休講
		社会学特殊研究ⅢB	2	SOC706				
社会学特殊研究Ⅳ	4	社会学特殊研究ⅣA	2	SOC707	春秋	講義		本年度休講
		社会学特殊研究ⅣB	2	SOC708				
社会学特殊研究Ⅴ	4	社会学特殊研究ⅤA	2	SOC709	春秋	講義		本年度休講
		社会学特殊研究ⅤB	2	SOC710				
社会学特殊研究Ⅵ	4	社会学特殊研究ⅥA	2	SOC711	春秋	講義	西野理子	社会学研究指導ⅥA/Bと共通
		社会学特殊研究ⅥB	2	SOC712				
文化人類学特殊研究	4	文化人類学特殊研究ⅠA	2	CUA701	春秋	講義	長津一史	文化人類学研究指導ⅠA/Bと共通
		文化人類学特殊研究ⅠB	2	CUA702				
文化人類学特殊研究ⅡA	2	文化人類学特殊研究ⅡA	2	CUA703	春秋	講義		本年度休講
文化人類学特殊研究ⅡB	2	文化人類学特殊研究ⅡB	2	CUA704				
社会情報学特殊研究Ⅰ	4	社会情報学特殊研究ⅠA	2	SOC713	春秋	講義	海野敏	社会情報学研究指導ⅠA/Bと共通
		社会情報学特殊研究ⅠB	2	SOC714				
社会情報学特殊研究Ⅱ	4	社会情報学特殊研究ⅡA	2	SOC715	春秋	講義	小笠原盛浩	社会情報学研究指導ⅡA/Bと共通
		社会情報学特殊研究ⅡB	2	SOC716				
社会情報学特殊研究Ⅲ	4	社会情報学特殊研究ⅢA	2	SOC717	春秋	講義	中村功	社会情報学研究指導ⅢA/Bと共通
		社会情報学特殊研究ⅢB	2	SOC718				
社会情報学特殊研究ⅣA	2	社会情報学特殊研究ⅣA	2	SOC719	春秋	講義	長広美	社会情報学研究指導ⅣA/Bと共通
社会情報学特殊研究ⅣB	2	社会情報学特殊研究ⅣB	2	SOC720				
社会学研究指導Ⅰ		社会学研究指導ⅠA		REG701	春秋			本年度休講
		社会学研究指導ⅠB		REG702				
社会学研究指導Ⅱ		社会学研究指導ⅡA		REG703	春秋			本年度休講
		社会学研究指導ⅡB		REG704				
社会学研究指導Ⅲ		社会学研究指導ⅢA		REG705	春秋			本年度休講
		社会学研究指導ⅢB		REG706				
社会学研究指導Ⅳ		社会学研究指導ⅣA		REG707	春秋		高橋典史	
		社会学研究指導ⅣB		REG708				
社会学研究指導Ⅴ		社会学研究指導ⅤA		REG711	春秋			本年度休講
		社会学研究指導ⅤB		REG712				
社会学研究指導Ⅵ		社会学研究指導ⅥA		REG709	春秋		西野理子	
		社会学研究指導ⅥB		REG710				
文化人類学研究指導		文化人類学研究指導ⅠA		REG713	春秋		長津一史	
		文化人類学研究指導ⅠB		REG714				
文化人類学研究指導ⅡA		文化人類学研究指導ⅡA		REG715	春秋			本年度休講
文化人類学研究指導ⅡB		文化人類学研究指導ⅡB		REG716				
社会情報学研究指導Ⅰ		社会情報学研究指導ⅠA		REG717	春秋		海野敏	
		社会情報学研究指導ⅠB		REG718				
社会情報学研究指導Ⅱ		社会情報学研究指導ⅡA		REG719	春秋		小笠原盛浩	
		社会情報学研究指導ⅡB		REG720				
社会情報学研究指導Ⅲ		社会情報学研究指導ⅢA		REG721	春秋		中村功	
		社会情報学研究指導ⅢB		REG722				
社会情報学研究指導ⅣA		社会情報学研究指導ⅣA		REG723	春秋		長広美	
社会情報学研究指導ⅣB		社会情報学研究指導ⅣB		REG724				

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(各研究指導は、指定された講義において行う)。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる。

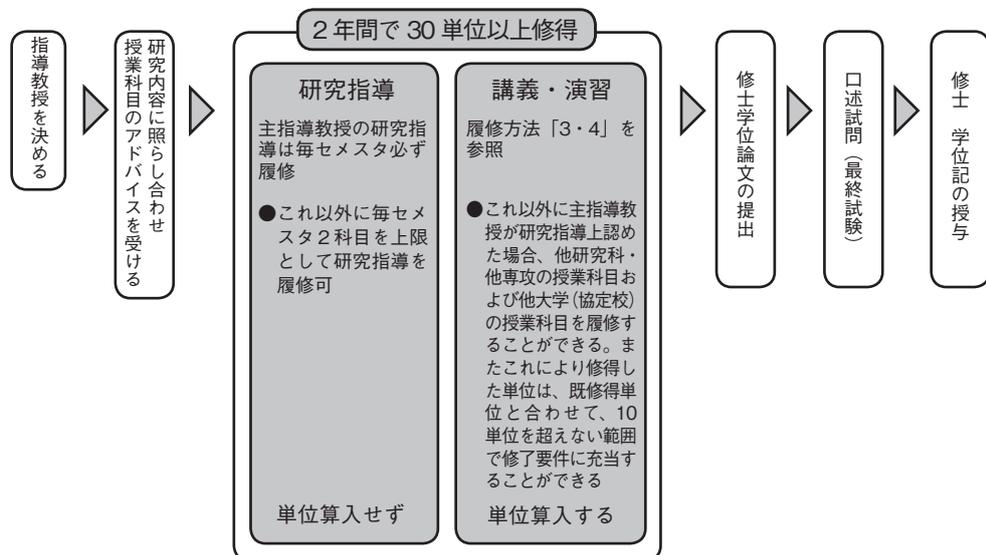
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

■ 専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.154～155を参照のうえ、不明な点があれば、2021年度本学連絡責任者(長津一史教授)または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

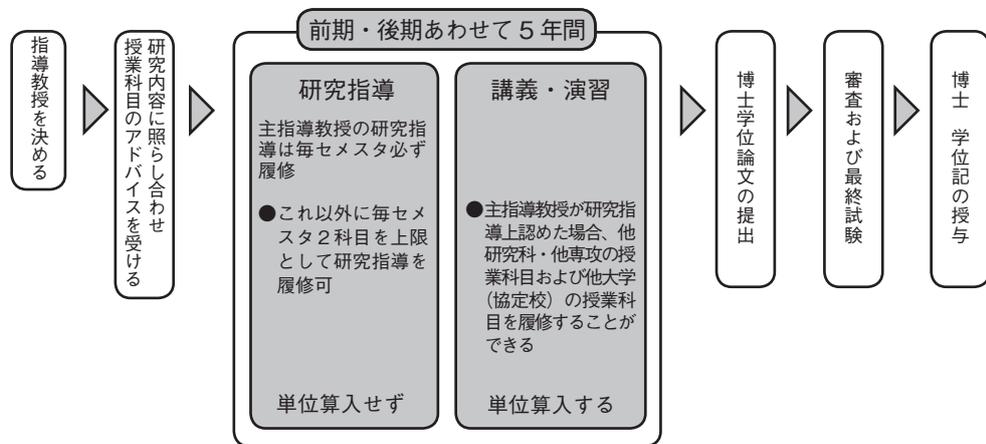
(資格申請のための要件のうち、p.154(2)①の科目は、博士前期課程開講科目のため、修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)

社会心理学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

社会心理学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	科 目 ナンバリング	学 期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備 考
基礎社会心理学		2	SOP601	春	講義	北村英哉	
外国語表現法 A	英語ライティング	2	FLE601	秋	講義		
外国語表現法 B	英語プレゼンテーション	2	FLE602	春	講義	グラフ デイヴィッド	
社会心理学研究法 I A	情報処理	2	SOP602	春	講義	大島 尚	社会心理学研究指導XA/Bと共通
社会心理学研究法 I B		2	SOP603	秋			
社会心理学研究法 II A	調査法	2	SOC603	春	講義	大谷 奈緒子	
社会心理学研究法 II B		2	SOC604	秋	講義	大竹 延幸	
社会心理学研究法 III A	統計解析および 多変量解析	2	SOC605	春	講義	尾崎 幸謙	
社会心理学研究法 III B		2	SOC606	秋			
社会心理学研究法 IV	質的調査法1	2	SOC607	春	講義	長津 一史	
社会心理学研究法 V	質的調査法2	2	SOC608	春	講義	水野 剛也	
社会心理学研究法 VI A	実験法	2	EXP601	春	講義	尾崎 由佳	
社会心理学研究法 VI B		2	EXP602	秋			
社会心理学特論 I A	認 知	2	EXP603	春	講義	尾崎 由佳	社会心理学研究指導II A/Bと共通
社会心理学特論 I B		2	EXP604	秋			
社会心理学特論 II A	対人関係	2	SOP604	春	講義	片山 美由紀	社会心理学研究指導XI A/Bと共通
社会心理学特論 II B		2	SOP605	秋			
社会心理学特論 III A	発 達	2	EDP601	春	講義	浅田 晃佑	社会心理学研究指導VI A/Bと共通
社会心理学特論 III B		2	EDP602	秋			
社会心理学特論 IV A	適 応	2	SOP606	春	講義	坂本 真士	隔年開講・集中講義
社会心理学特論 IV B		2	SOP607	秋			
社会心理学特論 V A	感情・動機づけ	2	EXP605	春	講義	戸梶 亜紀彦	社会心理学研究指導IX A/Bと共通
社会心理学特論 V B		2	EXP606	秋			
社会心理学特論 VI A	精神病理学	2	CLI601		講義		本年度休講
社会心理学特論 VI B		2	CLI602				
社会心理学特論 VII A	健 康	2	CLI603	春	講義	加藤 司	社会心理学研究指導XII A/Bと共通
社会心理学特論 VII B		2	CLI604				
社会心理学演習 I A	態 度	2	SOP608	春	演習	北村英哉	社会心理学研究指導I A/Bと共通
社会心理学演習 I B		2	SOP609				
社会心理学演習 II A	自 己	2	SOP610	春	演習	橋本 剛明	社会心理学研究指導III A/Bと共通
社会心理学演習 II B		2	SOP611				
社会心理学演習 III A	性 格	2	CLI605		演習		本年度休講
社会心理学演習 III B		2	CLI606				
社会心理学演習 IV A	集 団 過 程	2	SOP612	春	演習	堀毛 一也	社会心理学研究指導IV A/Bと共通
社会心理学演習 IV B		2	SOP613				
社会心理学演習 V A	犯 罪	2	CLI607	春	演習	桐生 正幸	社会心理学研究指導VII A/Bと共通
社会心理学演習 V B		2	CLI608				
社会心理学演習 VI A	社 会 意 識	2	SOP614		演習		本年度休講
社会心理学演習 VI B		2	SOP615				
社会心理学総合研究 A ①		1	SEM601	春	演習	橋本 剛明	
社会心理学総合研究 B ①		1	SEM602	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ②		1	SEM603	春	演習	大島 尚	
社会心理学総合研究 B ②		1	SEM604	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ③		1	SEM605	春	演習	尾崎 由佳	
社会心理学総合研究 B ③		1	SEM606	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ④		1	SEM607	春	演習	片山 美由紀	
社会心理学総合研究 B ④		1	SEM608	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ⑤		1	SEM609	春	演習	浅田 晃佑	
社会心理学総合研究 B ⑤		1	SEM610	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ⑥		1	SEM611	春	演習	戸梶 亜紀彦	
社会心理学総合研究 B ⑥		1	SEM612	秋	演習		
社会心理学総合研究 A ⑦		1	SEM613		演習		本年度休講
社会心理学総合研究 B ⑦		1	SEM614		演習		
社会心理学総合研究 A ⑧		1	SEM615	春	演習	北村英哉	
社会心理学総合研究 B ⑧		1	SEM616	秋			

授業科目・研究指導	サブタイトル	単 位	科 目 ナンバリング	学 期	講義・ 演習の別	担 当 教 員	備 考
社会心理学総合研究 A ⑨		1	SEM617		演 習		本年度休講
社会心理学総合研究 B ⑨		1	SEM618				
社会心理学総合研究 A ⑩		1	SEM619		演 習		本年度休講
社会心理学総合研究 B ⑩		1	SEM620				
社会心理学総合研究 A ⑪		1	SEM621		演 習		本年度休講
社会心理学総合研究 B ⑪		1	SEM622				
社会心理学総合研究 A ⑫		1	SEM623		演 習		本年度休講
社会心理学総合研究 B ⑫		1	SEM624				
社会心理学総合研究 A ⑬		1	SEM625	春	演 習	加 藤 司	
社会心理学総合研究 B ⑬		1	SEM626	秋			
社会心理学研究指導 I A	態 度		REG601	春		北 村 英 哉	
社会心理学研究指導 I B			REG602	秋			
社会心理学研究指導 II A	認 知		REG603	春		尾 崎 由 佳	
社会心理学研究指導 II B			REG604	秋			
社会心理学研究指導 III A	自 己		REG605	春		橋 本 剛 明	
社会心理学研究指導 III B			REG606	秋			
社会心理学研究指導 IV A	集 団 過 程		REG607	春		堀 毛 一 也	
社会心理学研究指導 IV B			REG608	秋			
社会心理学研究指導 V A	性 格		REG609	春		松 田 英 子	
社会心理学研究指導 V B			REG610	秋			
社会心理学研究指導 VI A	発 達		REG611	春		浅 田 晃 佑	
社会心理学研究指導 VI B			REG612	秋			
社会心理学研究指導 VII A	犯 罪		REG613	春		桐 生 正 幸	
社会心理学研究指導 VII B			REG614	秋			
社会心理学研究指導 VIII A	社 会 意 識		REG615	春		山 田 一 成	
社会心理学研究指導 VIII B			REG616	秋			
社会心理学研究指導 IX A	感情・動機づけ		REG617	春		戸 梶 亜 紀 彦	
社会心理学研究指導 IX B			REG618	秋			
社会心理学研究指導 X A	情 報 処 理		REG619	春		大 島 尚	
社会心理学研究指導 X B			REG620	秋			
社会心理学研究指導 XI A	対 人 関 係		REG621	春		片 山 美 由 紀	
社会心理学研究指導 XI B			REG622	秋			
社会心理学研究指導 XII A	健 康		REG623	春		加 藤 司	
社会心理学研究指導 XII B			REG624	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(各研究指導は、指定された講義または演習において行う)。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中各2回(8単位)まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降(長期履修学生および原級した場合等)の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる(同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位(既修得単位)と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.154～155を参照のうえ、不明な点があれば、2021年度本学連絡責任者(長津一史教授)または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

博士後期課程

授業科目・研究指導						講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング	学期			
社会心理学特殊研究Ⅰ	4	社会心理学特殊研究ⅠA 社会心理学特殊研究ⅠB	2 2	PSY701 PSY702	春秋	講義	大島 尚	社会心理学研究指導ⅤA ／Bと共通
社会心理学特殊研究Ⅱ	4	社会心理学特殊研究ⅡA 社会心理学特殊研究ⅡB	2 2	PSY703 PSY704	春秋	講義	加藤 司	社会心理学研究指導ⅠA ／Bと共通
社会心理学特殊研究Ⅲ	4	社会心理学特殊研究ⅢA 社会心理学特殊研究ⅢB	2 2	PSY705 PSY706	春秋	講義	北村 英哉	社会心理学研究指導ⅧA ／Bと共通
社会心理学特殊研究Ⅳ	4	社会心理学特殊研究ⅣA 社会心理学特殊研究ⅣB	2 2	PSY707 PSY708		講義		本年度休講
社会心理学特殊研究Ⅴ	4	社会心理学特殊研究ⅤA 社会心理学特殊研究ⅤB	2 2	PSY709 PSY710		講義		本年度休講
社会心理学特殊研究Ⅵ	4	社会心理学特殊研究ⅥA 社会心理学特殊研究ⅥB	2 2	PSY711 PSY712		講義		本年度休講
社会心理学特殊研究Ⅶ	4	社会心理学特殊研究ⅦA 社会心理学特殊研究ⅦB	2 2	PSY713 PSY714	春秋	講義	堀毛 一也	社会心理学研究指導ⅢA ／Bと共通
社会心理学特殊研究Ⅷ	4	社会心理学特殊研究ⅧA 社会心理学特殊研究ⅧB	2 2	PSY715 PSY716	春秋	講義	戸梶 亜紀彦	社会心理学研究指導ⅩA ／Bと共通
社会心理学特殊研究Ⅸ	4	社会心理学特殊研究ⅨA 社会心理学特殊研究ⅨB	2 2	PSY717 PSY718	春秋	講義	桐生 正幸	社会心理学研究指導ⅣA ／Bと共通
社会心理学特殊研究ⅩA	2	社会心理学特殊研究ⅩA	2	PSY719	春秋	講義	尾崎 由佳	社会心理学研究指導ⅥA ／Bと共通
社会心理学特殊研究ⅩB	2	社会心理学特殊研究ⅩB	2	PSY720				
社会心理学特殊研究ⅪA	2	社会心理学特殊研究ⅪA	2	PSY721		講義		本年度休講
社会心理学特殊研究ⅪB	2	社会心理学特殊研究ⅪB	2	PSY722				
社会心理学総合研究①	2	社会心理学総合研究A① 社会心理学総合研究B①	1 1	SEM701 SEM702	春秋	演習	大島 尚	
社会心理学総合研究②	2	社会心理学総合研究A② 社会心理学総合研究B②	1 1	SEM703 SEM704	春秋	演習	加藤 司	
社会心理学総合研究③	2	社会心理学総合研究A③ 社会心理学総合研究B③	1 1	SEM705 SEM706	春秋	演習	北村 英哉	
社会心理学総合研究④	2	社会心理学総合研究A④ 社会心理学総合研究B④	1 1	SEM707 SEM708		演習		本年度休講
社会心理学総合研究⑤	2	社会心理学総合研究A⑤ 社会心理学総合研究B⑤	1 1	SEM709 SEM710		演習		本年度休講
社会心理学総合研究⑥	2	社会心理学総合研究A⑥ 社会心理学総合研究B⑥	1 1	SEM711 SEM712		演習		本年度休講
社会心理学総合研究⑦	2	社会心理学総合研究A⑦ 社会心理学総合研究B⑦	1 1	SEM713 SEM714		演習		本年度休講
社会心理学総合研究⑧	2	社会心理学総合研究A⑧ 社会心理学総合研究B⑧	1 1	SEM715 SEM716	春秋	演習	戸梶 亜紀彦	
社会心理学総合研究⑨	2	社会心理学総合研究A⑨ 社会心理学総合研究B⑨	1 1	SEM717 SEM718	春秋	演習	桐生 正幸	
社会心理学総合研究A⑩	1	社会心理学総合研究A⑩	1	SEM719	春秋	演習	尾崎 由佳	
社会心理学総合研究B⑩	1	社会心理学総合研究B⑩	1	SEM720				
社会心理学総合研究A⑪	1	社会心理学総合研究A⑪	1	SEM721		演習		本年度休講
社会心理学総合研究B⑪	1	社会心理学総合研究B⑪	1	SEM722				
社会心理学研究指導Ⅰ		社会心理学研究指導ⅠA 社会心理学研究指導ⅠB		REG701 REG702	春秋		加藤 司	
社会心理学研究指導Ⅱ		社会心理学研究指導ⅡA 社会心理学研究指導ⅡB		REG703 REG704				本年度休講
社会心理学研究指導Ⅲ		社会心理学研究指導ⅢA 社会心理学研究指導ⅢB		REG705 REG706	春秋		堀毛 一也	
社会心理学研究指導Ⅳ		社会心理学研究指導ⅣA 社会心理学研究指導ⅣB		REG707 REG708	春秋		桐生 正幸	
社会心理学研究指導Ⅴ		社会心理学研究指導ⅤA 社会心理学研究指導ⅤB		REG709 REG710	春秋		大島 尚	
社会心理学研究指導ⅥA		社会心理学研究指導ⅥA		REG711	春秋		尾崎 由佳	
社会心理学研究指導ⅥB		社会心理学研究指導ⅥB		REG712	春秋			
社会心理学研究指導ⅦA		社会心理学研究指導ⅦA		REG713	春秋		松田 英子	
社会心理学研究指導ⅦB		社会心理学研究指導ⅦB		REG714	春秋			
社会心理学研究指導ⅧA		社会心理学研究指導ⅧA		REG715	春秋		北村 英哉	
社会心理学研究指導ⅧB		社会心理学研究指導ⅧB		REG716	春秋			
社会心理学研究指導ⅨA		社会心理学研究指導ⅨA		REG717				本年度休講
社会心理学研究指導ⅨB		社会心理学研究指導ⅨB		REG718				
社会心理学研究指導ⅩA		社会心理学研究指導ⅩA		REG719	春秋		戸梶 亜紀彦	
社会心理学研究指導ⅩB		社会心理学研究指導ⅩB		REG720				
社会心理学研究指導ⅪA		社会心理学研究指導ⅪA		REG721				本年度休講
社会心理学研究指導ⅪB		社会心理学研究指導ⅪB		REG722				

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(各研究指導は、指定された講義において行う)。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる。

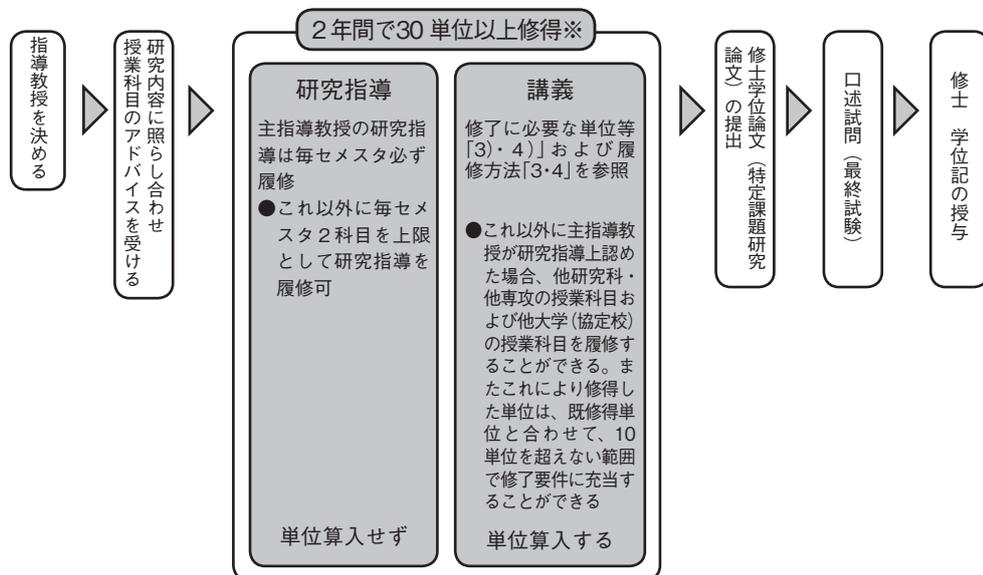
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.154～155を参照のうえ、不明な点があれば、2021年度本学連絡責任者(長津一史教授)または大学院教務課窓口に必ず相談すること。
(資格申請のための要件のうち、p.155 (2) ②の科目は、博士前期課程開講科目のため、修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)

福祉社会システム専攻 (2020年度入学生まで)

修士課程

履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は、2年間で36単位以上修得

※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

福祉社会システム専攻

修士課程（2020年度入学生まで）

区分	授業科目	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
基礎科目	研究基礎論	2	SEM601	春	講義	小須 文村 尾田 須文 神谷 小 山 酒 井 文	必修科目 オムニバス方式
	実践知と理論	2	SEM602	秋	講義	澤田 原 尾田 須文 神谷 小 山 酒 井 文	必修科目 オムニバス方式
	現代社会論	2	SOC601	春	講義	神谷 悠一	
	社会調査論	2	SOC602	春	講義	小山 弘美	
	研究方法論A(量的データの分析)	2	SOC603	秋	講義	酒井 計史	
	研究方法論B(質的データの分析)	2	SOC604	秋	講義	文 貞 實	
専門科目 (社会学系)	社会学的認識論A	2	SOC605		講義		本年度休講
	社会学的認識論B	2	SOC606		講義		本年度休講
	グローバリゼーションと現代社会A	2	CUA601		講義		本年度休講
	グローバリゼーションと現代社会B	2	CUA602		講義		本年度休講
	グローバリゼーションとボランティア・非営利組織論	2	SOC607		講義		本年度休講
	地域と現代社会A	2	SOC608	春	講義	文 貞 實	福祉社会システム研究指導ⅢA /Bと共通
	地域と現代社会B	2	SOC609	秋	講義		
	教育システムと現代社会A	2	SOE601	春	講義	小 澤 浩 明	福祉社会システム研究指導ⅣA /Bと共通
	教育システムと現代社会B	2	SOE602	秋	講義		
	雇用・労働システムと現代社会A	2	SOC610	春	講義	村 尾 祐美子	福祉社会システム研究指導ⅤA /Bと共通
	雇用・労働システムと現代社会B	2	SOC611	秋	講義		
	キャリアデザイン論A	2	SOC616	春	講義	榊 原 圭 子	福祉社会システム研究指導ⅩA /Bと共通
	キャリアデザイン論B	2	SOC617	秋	講義		
	ジェンダーと現代社会	2	SOC613	春	講義	皆 川 満寿美	
	子どもと現代社会	2	SOC614	秋	講義	立 柳 聡	
貧困と現代社会	2	SOC615	秋	講義	北 川 由紀彦		
専門科目 (福祉学系)	高齢者ケアシステム論A	2	SWS601	春	講義	須 田 木綿子	福祉社会システム研究指導ⅦA /Bと共通
	高齢者ケアシステム論B	2	SWS602	秋	講義		
	ソーシャルワークと権利擁護論A	2	SWS603	春	講義	高 山 直 樹	福祉社会システム研究指導ⅧA /Bと共通
	ソーシャルワークと権利擁護論B	2	SWS604	秋	講義		
	多文化共生システム論A	2	SWS605	春	講義	荻 野 剛 史	福祉社会システム研究指導ⅨA /Bと共通
	多文化共生システム論B	2	SWS606	秋	講義		
	グローバリゼーションと社会福祉	2	SWS607	秋	講義	新 名 正 弥	
	ケアマネジメントと地域包括ケアシステム論	2	SWS608		講義		本年度休講
	スーパービジョン・実践評価論	2	SWS609		演習		
	コミュニティケアシステム論	2	SWS610	春	講義	和 秀 俊	
	ソーシャルワーク論	2	SWS611	秋	演習	久 松 信 夫	
	障害者ソーシャルワーク論	2	SWS612	秋	講義	大 村 美 保	
	医療ソーシャルワーク論	2	SWS613	秋	講義	若 林 浩 司	
	精神保健福祉論	2	SWS614	春	講義	山 口 創 生	
	保健福祉サービスマネジメント論	2	SWS615	秋	講義	廣 瀬 圭 子	隔年開講
医学と福祉・社会的課題A	2	RSW601	春	講義	高 橋 龍太郎	集中講義	
医学と福祉・社会的課題B	2	RSW602	秋	講義			

区分	授業科目	単位	科目 ナンバリング	学期	講義・ 演習の 別	担当教員	備考
研究 指導	福祉社会システム研究指導ⅠA		REG601				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅠB		REG602				
	福祉社会システム研究指導ⅡA		REG603				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅡB		REG604				
	福祉社会システム研究指導ⅢA		REG605	春秋		文 貞 實	
	福祉社会システム研究指導ⅢB		REG606	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅣA		REG607	春秋		小 澤 浩 明	
	福祉社会システム研究指導ⅣB		REG608	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅤA		REG609	春秋		村 尾 祐美子	
	福祉社会システム研究指導ⅤB		REG610	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅥA		REG611				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅥB		REG612				
	福祉社会システム研究指導ⅦA		REG613	春秋		須 田 木綿子	
	福祉社会システム研究指導ⅦB		REG614	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅧA		REG615	春秋		高 山 直 樹	
	福祉社会システム研究指導ⅧB		REG616	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅨA		REG617	春秋		萩 野 剛 史	
	福祉社会システム研究指導ⅨB		REG618	春秋			
	福祉社会システム研究指導ⅩA		REG619	春秋		榊 原 圭 子	
	福祉社会システム研究指導ⅩB		REG620	春秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、修士論文に代えて学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で36単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 基礎科目
 - ①全体で4科目8単位以上修得すること。
 - ②必修科目2科目4単位を修得すること。
 - ③選択科目から2科目4単位以上修得すること。
- 4) 専門科目
 - ①全体で6科目12単位以上修得すること。
 - ②社会学系から3科目6単位を修得すること。
 - ③福祉学系から3科目6単位を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、在学中各2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
4. 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。